

# 大分県外国人総合相談センター おおいた国際交流プラザ



## 令和5年度「日本語おしゃべり会」開催 (日本語教室・日本語ボランティア研修実習編)



大分県からの委託を受け、1月28日に「日本語おしゃべり会」を大分市内で開催しました。県内の日本語教室5教室から8か国18名（大分市5名、中津市2名、豊後高田市5名、宇佐市6名）の外国人学習者が発表し、教室の指導者や関係者を含め68名が参加しました。

冒頭、主催者を代表し県国際政策課の荻課長が挨拶を行い、「皆さん緊張されていることと思いますが、単語や文法は間違っていないかもしれませんが、大切なことは、しっかりと自分の想いを伝えること

とです。リラックスして、日頃の勉強の成果を存分に発揮していただくことを期待しています」と発表者にエールを送りました。

発表では各人3分間で、故郷への思いや日本語教室の先生たちへの感謝の気持ち、将来の夢などを日本語で熱くスピーチしました。なかには母国の伝統的な衣装を着て登場する発表者もいて、会の盛り上げにひと役買ってくれました。また各教室の指導者には、発表者の人柄や日頃の指導で気をつけている点などについて紹介していただきました。

最後の講評では、県日本語教育総括コーディネーターの立命館アジア太平洋大学の本田教授から、「皆さんの毎日の努力が、今日のこの素晴らしい発表につながっていることがよくわかりました。また、指導者、学習者がお互いを思いやり、感謝する、という教室の様子や雰囲気は伺え、温かい気持ちになりました」とのコメントをいただき、盛況のうちに会を終了しました。



### information

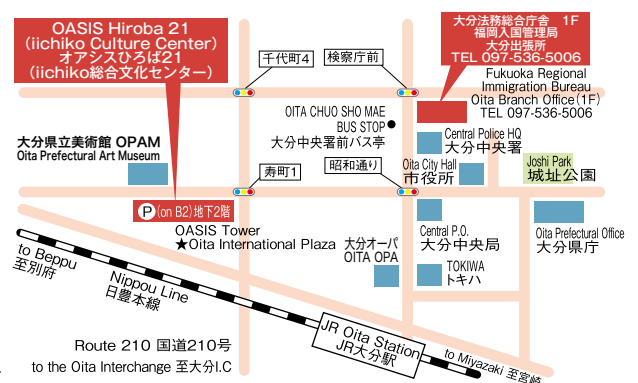
〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko総合文化センター 地下1階  
 TEL 097-529-7119 (相談センター)  
 TEL 097-533-4021 (国際交流プラザ)  
 FAX 097-533-4052 (相談センター・国際交流プラザ)  
 URL: <http://www.oitaplaza.jp/> (相談センター・国際交流プラザ)  
 E-mail: oisc@emo.or.jp (相談センター)  
 E-mail: in@emo.or.jp (国際交流プラザ)

**時間** 月～土 (相談センター・国際交流プラザ)

10:00～17:00 (相談センター)

9:30～18:00 (国際交流プラザ)

※日曜、祝日、iichiko総合文化センター休館日および年末年始はお休みです



# ボランティア等を対象の 災害時外国人支援セミナーを開催

大分県から委託を受け、「災害時外国人支援セミナー」を令和5年12月9日にiichiko総合文化センターで開催しました。

今回のセミナーは、地域で防災や外国人支援に携わっている防災士や通訳・翻訳ボランティア、日本語教室ボランティアなど、22名の方に参加していただきました。

冒頭、県国際政策課・萩課長より近年、異常気象等による大規模災害が多発する中、県内在住外国人や外国人観光客に対する災害支援は重要な課題である旨の挨拶がありました。

セミナーは、熊本市国際交流振興事業団事務局長の勝谷知美さんに、「外国人への災害時対応とやさしい日本語」をテーマに講演していただきました。勝谷さんは、同市において長きにわたり多文化共生社会の推進に従事され、2016年に起きた熊本地震の際には、外国人被災者の支援に奔走されました。

講演では、①災害時、外国人は、言葉や文化・生活様式の違い、希薄な地域との関係などから、日本人と比較すると、安全で適切な避難行動がとれない「災害時要援護者」となる可能性が高いこと、②そのため、普段から外国人の脆弱な点等を理解し、日



本人と外国人が支え合う関係づくりが重要であること、③こうして多文化パワー（当事者力）を高めた外国人は地域を支える担い手として活動できることなどのお話がありました。実際、熊本地震では、支援物資を配ったり、炊き出しに協力したりする外国人の姿も見られたとのことでした。

後半では災害時のコミュニケーションツールの一つである「やさしい日本語」の特徴や使い方などを説明していただきました。

講演の後、参加者たちは、勝谷さんが避難所巡回時の経験をもとに作成した資料を使って、グループワークを実施し、グループ毎に、各メンバーが外国人やボランティア、市役所職員となるロールプレイなどを通じて、避難所での外国人相談や外国人が抱える問題の解決方法について活発な意見交換とやさしい日本語への翻訳を行い、その結果を発表していただきました。

セミナー終了後のアンケートでは、「経験に裏打ちされたお話でわかりやすかった」、「グループワークを通じて理解が深まった」などの意見があり、高評価を頂いたところです。





# 大分県外国人総合相談センター相談件数・相談内容 (令和5年4月～令和6年3月)

大分県外国人総合相談センターが令和5年4月～令和6年3月までに受けた相談件数・相談内容をグラフにまとめました。

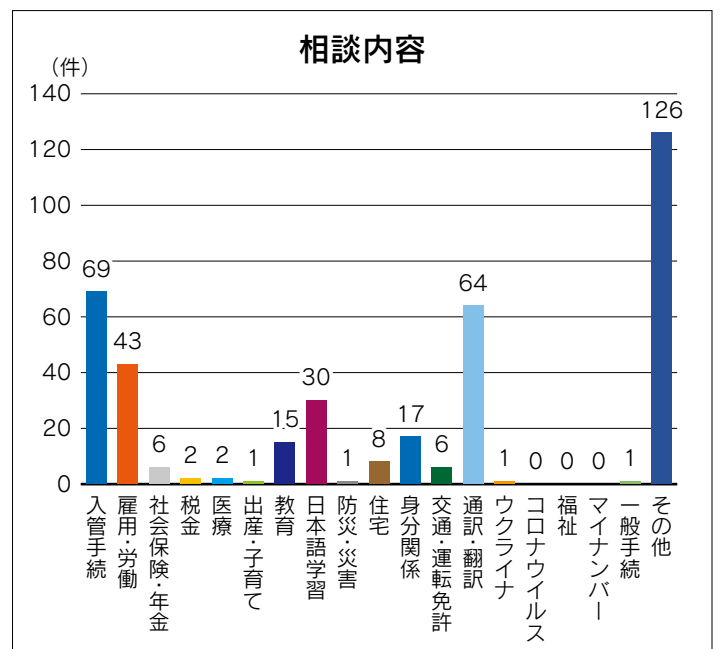
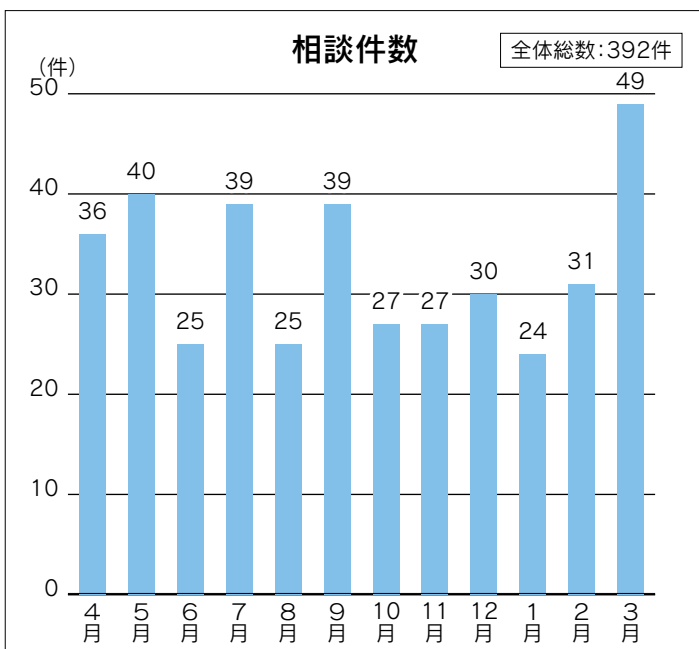
例年、多くの相談が寄せられる入管手続きや雇用・労働に加え、通訳・翻訳や日本語学習に関する相談の増加が見られました。これは県内在留外国人数が過去最高の17,587人（令和5年12月末時点）に上り、外国人のみならず外国人に関係する方や企業等からの相談が増えたことも関係していると考えられます。技能実習制度に替わる新たな制度への移行に伴い外国人数の増加が予想されることから、様々な相談に対応できる相談センターを目指し取り組んでまいります。

仕事や生活で困ったこと、心配なこと、分からないことがあれば大分県外国人総合相談センターにご相談ください。

HP



相談室



## 専門家相談 中国語相談 タガログ語相談

※相談員の都合でお休みになることがあります。 ※詳細はHPでご確認ください。

### ▶ 専門家相談

- 日時 毎週土曜日 13:00～16:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
- 相談員 外国人Life Support所属行政書士ほか ■費用 無料 ■申込 不要

事前の予約は必要ありませんが、専門家により専門分野が異なることや通訳が必要な場合がありますので相談内容を予めセンターにお知らせください。

### ▶ 中国語相談

- 日時 毎月第1、第3木曜日 10:00～13:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
- 相談員 おおいた国際交流プラザ 中国語相談員 ■費用 無料 ■申込 不要

### ▶ タガログ語相談

- 日時 毎月第1土曜日、第3火曜日 13:00～16:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
- 相談員 大分県フィリピン友好協会所属相談員 ■費用 無料 ■申込 不要

## 日本的物哀文化

我对日本的物哀文化深感着迷与欣赏。这种审美情怀超越了简单的美感，更是一种对生命、自然和时光的深刻思考和感悟。

物哀文化教会了我如何在日常生活中发现美的存在。它不是简单的美的表现，而是通过对时间流逝、生命变迁的感受，使人们更加珍惜眼前的一切。在日本的古老建筑、传统艺术和文学作品中，我发现了物哀文化的深邃内涵。每一件艺术品、每一首诗歌，都承载着对生命和自然的敬畏，让人沉浸在岁月静好的情感之中。

物哀文化也使我学会了从平凡中寻找美好。它并非要求我们追求豪华与奢华，而是鼓励我们在日常生活中发现美的存在。我曾在大学的花道课上听到老师讲：“我很遗憾人们只有在樱花盛开时才注意到它的存在。”是啊，樱花时终都在我们身边，只是以不同的样子罢了。一片枯叶、一朵凋零的花，又或一棵枯竭的树都蕴含着时光的痕迹和生命的意义。在这些平凡之中，我们可以感受到自然的力量和生命的美好，从而更加珍惜眼前的一切。

我深信，物哀文化不仅仅是一种审美情怀，更是一种生活态度。它教会我们如何在忙碌的生活中停下脚步，细细品味生活的美好和意义。在日本的物哀文化中，我找到了一种超越时空的美的存在，这种美将永远激励着我去追求更高更深的生活品质。

因此，我愿将物哀文化融入自己的生活中，让其成为我生活中的一部分。我会在平凡的日子里发现美的存在，珍视每一个温暖的时刻，感激生命的美好与深刻。物哀文化不仅让我感受到了自然与生命的力量，更让我学会了如何热爱这个世界，珍惜眼前的一切。



### 熙 泽

来自江苏苏州，本科就读于立命馆亚洲太平洋大学，即将前往同志社大学进行博士前期的课程学习。

### 【概説】

私は、日本の無常観的哀愁（もののあはれ）の文化に深く魅了されています。この文化は私に日常生活の中にある「美」を見いだす方法を教えてくれました。美とは単なる美しさを指すのではなく、時の流れや人生の変化を感じることであり、すべてをより大切にしたい気持ちにさせてくれます。

私は、この文化を生活に取り入れ、何気ない日常の生活の中に美の存在を発見し、温かな瞬間を大切にしたいと、人生の美しさと深さに感謝します。 ※概説はプラザが作成しました。

### 汉语咨询

欢迎您来大分国际交流广场。  
您想了解如何排解在日常生活中发生的各种困扰吗？  
您想咨询大分县人士风情文化和独特的美食吗？  
那就来大分国际交流广场吧！

这里有可以用母语交流的工作人员等候您的来访。愿为您的生活排忧解难，愿为您提供多文化共生环境的国际交流，愿为您的生活增添一份愉悦和欣喜。

时间：每月第1和第3的星期四10:00~13:00

场所：大分国际交流广场

iichiko综合文化中心 地下一层

费用：免费

TEL:097-533-4021

网上咨询 :oisc@emo.or.jp







## Shichittoi

Have you ever wondered what *tatami* is made of? If you said straw, you'd be half right. The core of tatami mats is made of rice straw, but the woven part that you can actually see is a grass known as *igusa* or common rush in English. It's a grass found all over the world, so it would make sense that it's used as literally something to step on. But it wasn't always this way.

Once upon a time, after tatami first became flooring in the Edo era, *igusa* was used mostly in the homes and castles of the wealthy and important few, and resembles the tatami most people know of today, with an edge around each mat. However, commoners often used a different grass known as *shichittoi*. Shichittoi is used in *Ryukyu* tatami, an edgeless variety that can be seen more often in period dramas than in real life. And the reason for that is an interesting one: shichittoi only remains in one place in Japan, the place of its origin—Oita.

Shichittoi came from Ryukyu archipelago to Oita and then spread through the rest of Japan as a household item (er, fixture?) due to the high durability it gets from its unique triangular cross-section. At its height in 1952, over 5.5 million Ryukyu tatami mats were exported to other parts of Japan every year, but unfortunately, shichittoi's toughness led to its undoing. It couldn't be mechanically harvested or weaved, so *igusa* took its place, leading to shichittoi's decline. At the same time, as a hand-crafted art, shichittoi became very valuable, leading to it taking *igusa*'s role as the tatami material of the wealthy.

Shichittoi tatami can be imported from China or Vietnam, but for the true article, there are only a handful of companies left making it in Kunisaki, Oita, and even they can only make about two mats a day each. As a now valuable material, the selection process for what goes into a tatami mat is strict, and the remainder is used for beautiful crafts.

While making a tatami mat may be a bit too much for most people, the Shichittoi Studio Nanatsumugi, one of the remaining facets of the shichittoi industry, occasionally holds workshops that let you make crafts using shichittoi yourself, under the guidance of the officially recognized shichittoi craftsman, Iwakiri-san. Thanks to the Oita International Plaza, I was able to participate in one of these workshops, learn about shichittoi and its history, and then make a coaster out of shichittoi completely by hand.

I am not very skilled with my hands (outside of electronics), but thanks to Iwakiri-san's instructions, I was able to make a braided coaster I am proud of. She taught everything from how to braid the grass together to how to wind it into a spiral, and she did it all patiently and with a smile. I also appreciate the history lecture given by the director of the Kunisaki Shichittoi Promotion Association, Hosoda-san. I would have never known that grass could have such an interesting history otherwise.

Shichittoi is a treasure of Oita, hopefully one that will last through the ages. I am glad I was able to make my own one-of-a-kind item with this one-of-a-kind material. If you also want to be a part of history, why not do the same?



### 【概訳】

「くにさき七島藨振興会」の細田事務局長によると、今では高級品となった「七島藨（しちとうい）」も江戸時代は丈夫な畳表として広く庶民に普及していたそうです。現在、七島藨を栽培する農家は国東市に数軒のみとなり、畳表以外にも工芸品やアクセサリーの材料として使われています。「七島藨工房ななつむぎ」の岩切さん指導のもとコースター作りを体験しました。大分の宝「七島藨」が時代を超えて受け継がれることを願っています。

※概訳はプラザが作成しました。

# Festivals and Events

県内イベント案内 ※掲載のイベントは、予告なく中止・変更になる場合があります。



**つくる展**  
-TASKO(タスコ)ファクトリー-のひらめきをかたち-

開催期間/4月5日(金)~5月6日(月・振休)  
会場/大分県立美術館 1階 展示室A  
観覧料/一般1,200(1,000)円  
高校・大学生1,000(800)円  
小・中学生700円(500)円  
※デンクンプレゼント 小・中学生1,000人を無料招待!  
※( )内は前売および有料入場20名以上の団体料金

**コレクション展I**  
アートと遊び心

開催期間/4月5日(金)~6月3日(月)  
※休展日 5月8日(水)  
会場/大分県立美術館 3階 コレクション展示室  
観覧料/一般300(250)円  
高校・大学生200(150)円  
※中学生以下は無料  
※( )内は有料入場20名以上の団体料金

**没後50年 福田平八郎**

開催期間/5月18日(土)~7月15日(月・祝)  
※休展日 6月17日(月)  
会場/大分県立美術館 3階 展示室B  
観覧料/一般1,400(1,200)円  
高校・大学生1,000(800)円  
※中学生以下は無料  
※( )内は前売および有料入場20名以上の団体料金

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料(3展共通)

**親子で楽しめる!**  
びじゅつかんでファミリーコンサート

開催日/5月25日(土)  
時間/①13:00~13:30  
②14:00~14:30  
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム  
料金/(全席自由)無料 ※予約不要  
出演/大分県内の個人またはグループで活動している演奏家

**iichiko総合文化センターリニューアルオープン記念公演**  
ウィーン少年合唱団

開催日/6月9日(日)  
時間/15:00~17:00(予定)  
会場/iichikoグランシアタ  
料金/(全席指定)  
S席 5,000円、A席 4,000円、  
B席 3,000円、U25割 各席半額  
※4歳以下入場不可  
出演/ウィーン少年合唱団シューベルト組  
(カペルマイスター:  
オリヴァー・シュテッヒ)

曲目/J.シュトラウスII:ワルツ《美しく青きドナウ》《千夜一夜物語》、  
ボルカ《アンネン・ボルカ》  
久石譲:映画『天空の城ラピュタ』より《君をのせて》  
ハーライン:映画『ピノキオ』より《星に願いを》  
シュワルツ:ミュージカル『ウィキッド』より《エメラルドシティ》  
岡野貞一:ふるさと ほか

**びび** 大分県芸術文化友の会  
GITA PREF ARTS & CULTURE MEMBERSHIP  
メンバー募集!

**iichiko** 総合文化センター  
iichiko Culture Center

**OPAM** 大分県立美術館  
Oita Prefectural Art Museum

## JICAデスク 大分からこんにちは!

JICAでは春と秋の年2回JICA海外協力隊の募集を行い、開発途上国等からの要請に基づいて現地の方々と一緒にその国や地域の課題解決に取り組んでいます。私も美容師として2年間、西アフリカのガーナに派遣されました。

今回はガーナの食生活について紹介します。私が住んでいたアシャンティ州のクマシというガーナ第二の都市では、みんなが大好きな食べ物がありました。それが「フフ」です。フフは主に食用バナナのプランテンとキャッサバと呼ばれるタピオカの原料となる芋を茹でて、日本のお餅のように臼と杵でついていきます。それを「ライトスープ」と呼ばれる、トマト、玉ねぎ、唐辛子をベースとしたスープ(この写真では山羊のお肉も)につけて手で食べます。それぞれの家庭の味があり、私は一緒に暮らしていたホストマザーのスープの味が一番好きでした。近所の子どもたちはよく集まってフフを囲んで食べていま



た。みんなで一緒に食べると美味しいですね。

ガーナで過ごしたお正月、ホストマザーは「ニューイヤーフフ」を作ってくれました。私も切り餅で磯部焼きを作りました。ホストマザーはそれを食べると大笑いして、「これはチューインガムに似ているね!」と言いました。確かにフフはあまり粘り気がなく歯切れもよく、彼女にとっては全く別の食べ物だったようです。おにぎりは好評でしたけどね。「おなじ×ちがい」という視点を通して異文化を理解し、尊重し合うことは多文化共生に今も大切なことだと思っています。



**JICA** JICAデスク 大分

iichiko総合文化センター(B1F) おおいた国際交流プラザ内  
担当: JICA九州・大分県国際協力推進員 金谷  
TEL: 097-533-4021 (おおいた国際交流プラザ直通)  
E-Mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp



# プ ラ ザ だ よ り



## 国際理解講座 ▶ イタリア編

国際理解講座イタリア編を12月17日に大分県立美術館 研修室で開催しました。おおいた国際交流プラザが主催するイタリア語講座の講師を務めるイタリア フィレンツェ出身のアンドレア ルツジェーリさんを講師に迎え、初めにドゥオーモやヴェッキオ橋に代表される歴史的建造物の写真と共に地元フィレンツェを紹介していただきました。他にもツリーの購入から始まるクリスマスに向けた準備やイブ、クリスマス当日の過ごし方、欧州連合(EU)加盟国としてのイタリアの変化、海外に住むイタリア人が懐かしく思う事など実体験も交えてお話しいただきました。

また今回は、同時期に県立美術館で開催していた「テルマエ工展」に関連して、複合娯楽施設としての顔を持つテルマエ(公共浴場)文化についても興味深い話を聞く事ができました。

イタリアと言えば、行きたい国の上位にランクインされ世界中から多くの観光客が訪れる国として有名です。アンケートのコメントからも文化や歴史、食に関する興味やイタリア旅行の参考にしたいなど、本講座に対する期待の高さが伺えました。沢山の方にご参加いただき大盛況のうちに終了することができました。



## 国際理解講座 ▶ 韓国料理編



国際理解講座韓国料理編を1月21日にJ:COMホルトホール 大分 キッチンスタジオで開催しました。おおいた国際交流プラザが主催するFree Talk Class韓国語の講師を務める県国際交流員の盧 知榮(ノ・ジヨン)さんを講師に迎え、韓国でよく食べられている3品(プデチゲ、ケランマリ、スクチュナムル)を作りました。

講師による料理の説明とポイントの確認、併せて韓国に住む講師の母親からのアドバイス「レシピ通りに作って本場韓国の味を再現してください」を受け、参加した皆さんは手際よく作業を進めていました。また、調理の合間に韓国旅行の思い出ばなしや韓国レストランの情報交換をするなど韓国一色の時間になったようです。

韓国料理は広く日本人に親しまれ、食材や調味料は比較的簡単に手に入ることから、講師は参加者が自宅でも作れるよう今回使用した材料にも工夫を凝らしていました。お友達と参加した方や個人で参加した方など様々でしたが、皆さん協力して楽しみながら作っている姿が印象的でした。試食した皆さんは出来栄えに大満足だったようで、持ち帰り用のレシピを見ながら「家でも作ってみよう」という声が多く聞かれ、充実した講座になりました。



# おおいた国際交流プラザからのお知らせ

## ●Free Talk Class

県国際交流員（CIR）が出身国の文化や日常生活について参加者に母国語で紹介し、楽しみながら言語に触れることを目的としています。

アメリカ、韓国、中国出身のネイティブと交流してみませんか。（各週で1言語）

日時 金曜日 13:30～15:00

定員 10名

## ●語学講座

新しい言語を習得したい方、学びながらその国の魅力に触れてみませんか。興味のある方はぜひご参加ください。

対象言語：インドネシア語、ベトナム語、イタリア語

定員 各10名

## ●通訳・翻訳ボランティア

おおいた国際交流プラザには、英語・中国語・韓国語・ドイツ語・イタリア語・ロシア語・タガログ語・スペイン語・ベトナム語・インドネシア語・タイ語・アラビア語・ヒンドゥー語・ウルドゥー語・ミャンマー語・マレー語の通訳・翻訳ボランティアが登録しています。

語学力を活かして、在留外国人のサポートをしたいという方のご登録を随時募集しています！

## ●日本語ボランティア

日本語ボランティアは、日本語を母語としない方に日本語を教えるボランティアです。

登録希望者は、おおいた国際交流プラザのHPから登録用紙をダウンロードしご記入のうえ、FAX、E-mail、または直接提出してください。

## ●医療ハンドブック

大分県内に在住する外国人のための医療ハンドブックをおおいた国際交流プラザのホームページでご覧いただけます(5か国語)ハンドブックでは、日本の医療制度、病院のかかり方、妊娠・出産の時の対応、事故や感染症など、日本で生活で知っておきたい情報を紹介しています。

## ●日本語教室情報

### ▶あいうえおCLUB

①場 所 アイネス（大分市）

日 時 毎週火・金 10:20～11:50

連絡先 090-8353-2485 宮瀬

②場 所 コンパルホール（大分市）

日 時 毎週木 18:30～20:30

連絡先 097-532-5940 加藤

### ▶さくら日本語教室

場 所 大分大学国際交流会館（大分市）

日 時 毎週月 10:15～12:00

連絡先 097-528-1865 川野

### ▶ひまわり

①場 所 明治明野公民館（大分市）

日 時 毎週水 14:00～15:30

②場 所 鶴崎公民館（大分市）

日 時 毎週土 10:00～11:30

③場 所 コンパルホール（大分市） ※こども日本語教室

日 時 毎週土 14:00～15:40

連絡先 097-527-2614 深田

### ▶BIP Japanese Conversation Class

場 所 APU PLAZA OITA (AP House 4) 1階

日 時 毎週火 10:00～11:00（入門）

11:10～12:40（初中級）

毎週水 14:00～15:30（初中級）

連絡先 0977-23-1119 神（こう）

